

第 10 回伊那市地方創生総合戦略審議会 会議録

開催日	平成 29 年 4 月 21 日（金）		
開催時間	開 会	午後 2 時	閉 会 午後 3 時 30 分
開催場所	市役所 1 階 多目的ホール		
委員出席者	伊那商工会議所 伊那市金融団 伊那市議会 旧伊那市区区長会 高遠町地区区長会 長谷地区区長会 長野県経営者協会上伊那支部 地域交通事業者 連合長野上伊那地域協議会 公募	唐木 和世 矢島 充博 中山 彰博 山岸 康弘 矢澤 克明 池上 敏明 高嶋 厚 中村 健二 日比野 誠 二瓶 裕史	
欠席者	上伊那森林組合 上伊那農業協同組合 伊那青年会議所 伊那市社会福祉協議会 伊那市教育委員会 中部 P T A 連合会 伊那市保育園保護者会連合会 伊那市観光協会 信州大学 伊那市女性人材バンク	伊藤 清 矢島 洋子 池上 裕平 小嶋 早苗 松田 泰俊 下島 英喜 小澤 篤 向山 知希 林 靖人 唐澤 桂子	
委員以外の出席者	上伊那地域振興局 企画振興課長 池内 武久		
出席した事務局職員等	企画部長 企画部地域創造課長 企画部地域創造課課長補佐 企画部地域創造課人口増推進係 商工観光部観光課観光政策係 商工観光部商工振興課工業振興係 地域おこし協力隊	飯島 智 宮原 貴敏 小川 貴 伊藤 貴 唐木 猛 那須 博文 杉山 祐樹	
議 事	(1) 地方創生総合戦略の平成 28 年度進捗状況について (2) 地方創生総合戦略の平成 29 年度の取組について (3) その他		

配布資料	資料 1	地方創生総合戦略の平成 28 年度進捗状況
	資料 2 - 1	「信州そば発祥の地」ブランド力向上事業
	資料 2 - 2	そばスタンプラリー実施結果
	資料 3	地方創生交付金 平成 29 年度実施・申請事業一覧
	資料 4	高遠城下町活性化プロジェクトについての現状報告

1 開会

唐木副会長より開会が宣言される。

2 あいさつ

矢島副会長：本日は本審議会条例に基づき、昨年度の進捗状況の効果検証を行うとともに、今年度の取組の総合的かつ計画的な推進について、委員の皆さんから広くご意見をいただきたい。地方創生の実現に向けて、活発なご議論をお願いしたい。

3 協議事項（進行：矢島副会長）

（1）地方創生総合戦略の平成 28 年度進捗状況について

副会長：事務局から説明をお願いします。

事務局：（資料 1 により説明）

副会長：説明内容について、ご意見、ご質問等がありますか。

委員：No.66（中心市街地活性化計画により指定された区域が含まれる地区の卸売業・小売業の店舗数）及びNo.89（間伐実施面積）のKPIの進捗状況が「実績値なし」となっているが、実績値は把握できないのか。

事務局：No.66・89 の実績値については、現時点では把握できなかったもので、引き続き把握に努めていく。

委員：No.92（地域おこし協力隊員数）について、協力隊の導入にあたっての調整や決定等はどのように行われているのか。

事務局：市では地域おこし協力隊を導入して地域活性化を図るため、平成 26 年度から庁内で必要な事業を調整・選定した上で、隊員をホームページ等で公募している。進捗状況では、「努力を要する」となっているが、今年度は既に 2 名導入し、更に 1 名を募集しているもので、実績値は 10 名となる予定。

副会長：リーディング・プロジェクト別の進捗状況をみると、「（6）ライフライン確保のための支援」には達成が難しいと思われる指標が多いこともあり、他のプロジェクトに比べて、「努力を要する」割合が高くなっているが、達成に向けて予定している取組はあるのか。

また、KPI の進捗状況の度合はそれぞれ異なるが、全体の評価としてはどのように考えているのか。

事務局：平成 28 年度の進捗状況については、全体としては概ね順調に推移していると考えている。ただし、KPI は地方創生交付金を申請する関係もあり、盛りだくさんに設定しており、中には焦点がぶれているような指標もあることから、今後は指標も含めて総合戦略の内容を精査、整理しながら、ブラッシュアップしていく。

副会長：続いて、昨年度、地方創生交付金を活用して実施した「信州そば発祥の地」ブランド化事業について、説明をお願いします。

事務局：（資料 2-1、2-2 により説明）

副会長：説明の内容について、ご意見、ご質問等がありますか。

委員：事業の K P I のうち、「無料動画投稿サイト内での再生回数」は前年度に比べて増加したが、「そばイベント及びそば店の来場者」は減少している。両指標の関連性も含めてどのように分析しているのか。

事務局：プロモーション動画（イーナ・ムービーズ）については、これまで市の知名度向上を目的に放映してきた。昨年度はイベントセールスにも活用できないかということで取り組んできたが、実際は会場に足を運んでもらえるところまでの効果は得られなかった。今後は、市民の認知度を上げる内向きと外向きのシティプロモーションとの両面の発信が必要と考えている。

委員：そばスタンプラリーの平成 28 年度の応募者数は前年度とほぼ同じであるが、初めて参加された方と前年度も参加された方のどちらの応募が多かったのか。

事務局：詳細は把握していないが、アンケートの内容をみると、初めて参加された方よりも平成 27 年度に引き続き参加された方が多かった。また、応募者数はほぼ同じであったが、応募用紙を持って帰られた方は前年度に比べて、1.2 から 1.5 倍程度増えている。

（2）地方創生総合戦略の平成 29 年度の取組について

副会長：事務局から説明をお願いします。

事務局：（資料 3、資料 4 により説明）

副会長：説明の内容について、ご意見、ご質問等がありますか。

委員：地方創生交付金を活用する平成 29 年度事業はどのような考え方で申請しているのか。

事務局：各 K P I の達成に向けて、担当課でそれぞれの施策に取り組んでいる。その中で、地方創生に向けて特に重点的に推進する事業について、交付金を申請している。

副会長：高遠城下町の活性化プロジェクトについては、10 年後、20 年後を見据えて住民の方や関係団体と連携して積み重ねていくことが大事だと感じた。

（3）その他

オブザーバー：県の建設事務所が行う道路整備の中には、戦略的公共事業として位置付け、観光や地域づくりに繋がるように住民の方と話をしながら進めていく事業もある。

現在、高遠町で行っている電柱の地中化も戦略的公共事業であることから、城下町の活性化プロジェクトの事業効果をより高めていくために、建設事務所とも連絡を取り合いながら、進めていただきたい。

4 その他（次期委員の選任について）

事務局：4 月 29 日をもって、委員の皆様が 2 年間の任期が満了する。次期委員の選任については、各選出団体に改めて委員の推薦をお願いしますので、これまでの総合戦略の策定経緯や内容を熟知されている現委員の皆様には、引き続き委員をお引き受けいただければ有り難い。

5 閉会

唐木副会長より閉会が宣言される。